

東京2020大会をオリンピック・パラリンピック競技大会史上最もクリーンでフェアな大会とするための取り組み

日本アンチ・ドーピング機構（以下、JADA）は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）がドーピングのない競技大会となるよう、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、東京2020組織委員会）と提携し、クリーンでフェアな大会の実現に向けて様々な活動に取り組んでおります。

クリーンでフェアな競技環境を構築するための取り組み

- ・ 国内の検査規模を大きく上回る大規模な検査件数に対応するため、スポーツ庁からの委託により複数年に亘るドーピング検査員の育成をおこない、大会検査体制の構築を支援。
- ・ オリンピック競技大会の開催前に、国際オリンピック委員会（以下、IOC）/International Testing Agency（以下、ITA）と世界アンチ・ドーピング機構（以下、WADA）が世界規模で展開したドーピング検査プログラム「Pre Games Task Force」での中核組織として検査を実施。
- ・ 東京2020大会の検体分析の為に設置されたWADA認定大会専用ラボラトリーで使用する分析機器をスポーツ振興くじ助成を活用し調達。
- ・ コロナ禍におけるPlaybookの規定を背景として、アスリートは競技終了後速やかに帰国する状況にあるが、規則違反の疑いが生じた場合には、帰国した後でも国際的ネットワークの連携によるタイムリーな検査を実施。

Sport For Tomorrow事業[※]を通じた国際的なアンチ・ドーピング推進体制の強化支援

- ・ Sport For Tomorrow（以下、SFT）事業における中核的な三本の柱の1つである「国際的なアンチ・ドーピング推進体制の強化支援」活動の実施主体として、世界各国に「スポーツの価値」を発信し、スポーツを通じた社会環境の構築・発展に貢献。
- ・ ドーピング検査手順を示したポスター、リーフレット、映像を作成。東京2020大会の全競技会場、及び選手村内のドーピング検査室にポスターを掲出。国際パラリンピック委員会（以下、IPC）のWEBサイトにおいて、映像教材等が掲載され、パラリンピック大会参加者等への情報を発信。また、ITA のウェビナーを通して教育の内容を共有。
- ・ 様々なセミナー、PLAY TRUE リレー、i-PLAY TRUE リレー、教材の開発・配布等を通じて、スポーツの価値を広く世界各国に発信。当機構が中核となり展開した活動による裨益国は188カ国。
※東京大会に向けたスポーツ分野における国際貢献のためのスポーツ庁委託事業

上記の取り組みのほか、関係機関とともに東京2020大会のドーピング検査活動の実施支援、実効性向上のため、以下の対応を継続的に実施しております。

- ・ 東京2020組織委員会への職員派遣
- ・ 新たな血液検査手法である「Dried Blood Spot」の実施に向けたWADAワーキンググループへの財政的、人的支援

また、東京2020大会に向けて、全てのアスリートがクリーンでフェアな環境で安心して競技に参加することを確実にするために、東京2020オリンピック競技大会については、東京2020組織委員会、文部科学省・スポーツ庁、ITA、（独）日本スポーツ振興センターとの間で、アンチ・ドーピング分野における情報及び専門的知識の交換を可能とする協力覚書を締結しました。東京2020パラリンピック競技大会についても、東京2020組織委員会、文部科学省・スポーツ庁、IPC、（独）日本スポーツ振興センターとの間で、同じく協力覚書の締結を予定しております。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 橋本会長のコメント

東京 2020 組織委員会は JADA と連携し、IOC、ITA、IPC、WADA をはじめ関係各機関と共にドーピング検査体制の構築、スポーツの価値の発信等の準備を重ねてきました。東京 2020 大会がオリンピック・パラリンピック競技大会史上、最もクリーンでフェアな大会となることと確信しております。

ドーピング検査員、分析機関の設置をはじめ、アンチ・ドーピング体制構築に尽力を頂いた全ての関係者に感謝するとともに、大会期間中を通じた競技環境の公正さの確保に努めて参ります。

スポーツ庁 室伏長官のコメント

JADA をはじめ IOC、ITA、IPC、WADA そして組織委員会など国内外の関係する皆様の取り組みにより、世界各国から東京 2020 大会に参加するアスリートが、競技に集中できる環境が整えられました。

スポーツ庁としても、これまでドーピング防止活動の推進やSFT事業を通して、ドーピングの撲滅及びスポーツの価値の発信に取り組んできました。東京2020大会がクリーンでフェアな大会となり、アスリートの皆さんがベストなパフォーマンスを発揮されることを期待しています。

WADA バンカ会長のコメント

素晴らしい都市、東京で開催される東京2020大会において、クリーンスポーツを守るために貢献できることを嬉しく思います。

WADAは、コロナ禍において、オリンピック・パラリンピック競技大会のインテグリティが守られ、そしてすべてのアスリートが東京2020大会来日前に適切な検査を受けることを確実にするため、JADA、東京2020組織委員会、IOC、IPC、ITAなど、世界中のパートナーと緊密に連携してきました。IOCおよびIPCと協力し大会参加者を対象としたアンチ・ドーピング教育プログラムの開発、WADA認定大会専用ラボラトリーの準備、東京2020大会のアンチ・ドーピング・プログラムを監視するインディペンデント・オブザーバー・プログラムの実施など、大会に向けた取り組みを行いました。

WADAを代表し、JADA、日本政府、そして大会の準備と実施に関わったすべての方々のクリーンスポーツへの献身的な取り組みに、感謝いたします。

ITA フォーネIRON会長のコメント

東京2020大会を目標に努力してきたすべてのアスリートのために、公平な競技環境を作り、独立した立場として東京2020大会でアンチ・ドーピング・プログラムを主導するITAは、開催国の信頼・信用できるパートナーであるJADAとともに大会を迎えることを嬉しく思います。

私たちは、東京2020大会でドーピング・コントロールを実施するJADAから派遣される検査員の専門性とプロフェッショナリズムに強い信頼をおいています。検査員のみなさんには、アスリートが質の高い検査プログラムを受けられるよう、ITAの国際DCOトレーニングと認定プログラムも受講いただきました。

大会前からITAはJADAと緊密に連携してきましたが、今大会を通してより強固なパートナーシップが構築されていくことを確信しています。

IPC パーソズ会長のコメント

大会の延期やコロナ禍をのりこえ、IPCとそのパートナーは、東京2020パラリンピック大会で最先端のアンチ・ドーピング・プログラムを提供できることを嬉しく思います。また、東京2020組織委員会、JADA、LSIメディアエンス株式会社が分析を担うWADA認定大会専用ラボ（大会ラボ）は、ドーピングのないスポーツへの揺るぎないコミットメントを表明しており、IPCは、大会期間中、これらのパートナーとの素晴らしい協力関係を継続できることを確信しています。

この困難な時期を通じて、IPC、東京2020組織委員会、JADA、大会ラボは、パラリンピック選手が可能な限り公正に競うことが出来る機会を提供してまいります。

これらの活動を通して、東京2020大会が、オリンピック・パラリンピック史上で最もクリーンでフェアな大会となるよう、引き続き取り組んでまいります。

以 上